

赤十字 NEWS

<http://www.jrc.or.jp>

MARCH 2019
NO.946

3

平成31年3月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第946号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

私
たちは
忘れ
ない。
。



©HIDEKI NAWATE/SEBUN PHOTO/amanaimages

私たちは、忘れない。
自分に何ができるか懸命に考え、行動したあの日々を。
一人ひとりが未来に備えることで、少しずつでも、前に進むことが出来たら。
日本赤十字社は、防災教育や防災セミナーを提供し、
防災・減災の大切さを訴求し続けています。

社会全体で、災害対応力を育むために。
3月は、「防災・減災プロジェクト」の月。

CONTENTS

FEATURE__2・3・4
平成の災害
と赤十字

SPECIAL TOPICS__5

ドキドキ体験！
みんなのボランティア
「災害に備えるボランティア」
(愛媛県)

AREA NEWS__6・7

関東甲信越/京都/群馬/静岡/香川/
埼玉/三重/大分/神奈川/高知
健康豆知識「隠れ肥満」

WORLD NEWS__8

避難民キャンプの
防災・減災活動
(バングラデシュ)
映画『ソローキンの見た桜』



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

平成の災害と赤十字

日赤の救護活動を写真で振り返る

A disaster and the Red Cross of the Heisei

災害で苦しむ人々に寄り添ってきた日本赤十字社

災害が多く発生した平成の30年間。雲仙普賢岳の噴火、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など大規模な災害が数多く発生しました。日本赤十字社は発生直後から、人員や資機材、救援物資などを迅速に被災地に届け、長期にわたり、被災者に寄り添う救護活動を行ってきました。平成の大規模災害から何を学び、どう被災地での支援活動に活かしてきたか。7つの大規模災害の振り返りとともに、ご紹介します。

雲仙普賢岳 噴火

平成3年

Mt. Unzen Erupted in 1991



平成の大規模災害はここから始まった

前年に198年ぶりに噴火した雲仙普賢岳で、6月3日大規模な火砕流、その後土石流も発生。死者・行方不明者44人、家屋や非住家の焼失・被害は2511棟の被害となりました。

Red Cross Topics

1533世帯6129人が避難生活を余儀なくされた。日赤は医療救護や救援物資に加え、温泉入浴やレクリエーションなど、被災者を精神面で支える活動も展開。また、長崎県赤十字無線奉仕団は、一般のアマチュア無線使用者の協力も得て約200人で島原市を含む半島内の情報収集を行った。



赤十字奉仕団に労いのお言葉を掛けられる天皇、皇后両陛下

阪神・淡路大震災

平成7年

The Great Hanshin Earthquake in 1995



避難者31万6千人を超える災害

1月17日淡路島北部を震源にM7.3の大地震が発生。死者・行方不明者6434人、建物は全壊10万4906棟、半壊と一部損壊合わせて53万4780棟、ピーク時の避難者31万6678人の大規模都市災害となりました。

Red Cross Topics

3月31日までに医療救護員を延べ5959人派遣し、3万8359人を救護。都市震災で活動が困難を極める中、被災者だけでなく救護員の震災ストレスケアにも関心が集まり、こころのケア活動を強化する契機となった。また、この年は「ボランティア元年」と言われ、災害時ボランティア活動のコーディネート的重要性から、調整機能などの充実強化を図った。



全国の日赤支部から支援物資が送られた

© ALPINA/SEBUN PHOTO amanaimages

平成の災害

1989
-
2018

※ 主な災害を抜粋

1989
平成元年

- 伊豆半島東方沖海底火山噴火(7月)
- 台風第11号災害(7月)
- 8月豪雨災害(7月~8月)
- 台風第13号災害(8月)
- 台風第17号災害(8月)
- 9月大雨による災害(9月~翌4月)
- 9月12日からの雨(9月)
- 台風第22号災害(9月)

1990
平成2年

- 九州集中豪雨災害(6月)
- 9月集中豪雨災害(9月)
- 9月集中豪雨災害(9月)
- 青森県南部および宮城県大雨災害(10月)
- 台風第19号災害(9月)

1991
平成3年

- 雲仙普賢岳噴火災害(5月~7月)
- 台風第12号災害(8月)
- 台風第17号災害(9月)
- 台風第18号災害(9月)
- 台風第19号災害(9月)

1992
平成4年

- ★防災ボランティアリーダー養成研修を開始
- 台風第10号災害(8月)
- 台風第11号による大雨災害(8月)

1993
平成5年

- 釧路沖地震(1月)
- 能登半島沖地震(2月)
- 北海道南西沖地震(7月)
- 鹿兒島県豪雨災害(7月~8月)
- 11月大雨・強風災害(11月)
- 台風第13号災害(9月)

1994
平成6年

- 大阪府および兵庫県における豪雨災害(9月)
- 宮城県における豪雨災害(9月)
- 北海道東方沖地震災害(10月)
- 三陸はるか沖地震災害(12月)

1995
平成7年

- 阪神・淡路大震災(1月)
- 新潟県北部地震(4月)
- 7月・8月の豪雨災害(7月~8月)
- 台風第14号豪雨災害(9月)

1996
平成8年

- 茨城県西部タウンバースト(7月)
- 宮城県北部地震災害(8月)
- 蒲原土石流災害(12月)

1997
平成9年

- 群馬県安中市山林火災(3月)
- 奥伊吹スキー場雪崩事故(1月)

Red Cross Topics

本社と兵庫県支部、熊本県支部に配備した仮設診療所「dERU」が本格稼働し、救護活動の拠点となった。その後平成16～20年度までの5カ年計画で、dERUを15ユニット整備することを決定。広域支援体制を強固にした。また、**自家用車で避難生活を送る被災者にエコノミークラス症候群が多発、救護班が注意喚起**などを行った。



移動可能なテント型でありながら緊急手術もできる dERU



新潟県中越地震

平成16年

Mid Niigata Prefecture Earthquake in 2004

斜面の崩落により多数の道路が寸断

震度7を記録した大地震が、10月23日新潟県中越地方で発生しました。死者68人、負傷者4805人の大きな被害をもたらしました。地震の後の余震も多く、年末までに877回もの有感地震が発生。約9000人が仮設住宅での生活を余儀なくされました。

東日本大震災

平成23年

The Great East Japan Earthquake in 2011

世界を震撼させた大津波による大災害

3月11日、M9.0、最大震度7の大地震により、東北から関東地方の太平洋沿岸部に最大40メートルの巨大津波が襲いかかり、壊滅的な被害となりました。地震と津波による死者1万9667人、行方不明者2566人、全壊家屋12万1783棟を数えました。建物の多くが流されるなど被害は甚大でした。1週間経過後の避難所は2182カ所、避難者数は38万6739人にもなりました。福島第一原子力発電所の事故により、被害はさらに深刻化し、避難生活も長期化しました。

Red Cross Topics

発災直後から日赤は救護班を派遣、行政機能も被害を受ける中、大規模かつ長期間にわたって支援活動を実施。医療救護やこころのケア活動などに加え、介護チームや看護チームを派遣するとともに、**海外からの救援金による復興支援事業**も展開。救護活動の検証を踏まえ、医療救護におけるコーディネート機能の構築や原子力災害への備えにも取り組んだ。



発災翌日、日赤本社から派遣された先遣隊が被災地に到着



海外赤十字社からの救援金をもとに避難所に給水設備を設置

1998 平成10年	1999 平成11年	2000 平成12年	2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2004 平成16年	2005 平成17年	2006 平成18年	2007 平成19年	2008 平成20年
<ul style="list-style-type: none"> ■ 山梨県勝沼町山林火災【3月】 ■ 秋田県鹿角市の土石流災害【5月】 ■ 鹿児島県薩摩地方を震源とする地震【5月】 ■ 7月梅雨前線大雨災害【7月】 ■ 新潟県豪雨災害【8月】 ■ 関東北部と東北部を中心とする大雨災害【8月】 ■ 高知県集中豪雨災害【9月】 ■ 台風第5号および第7号災害【9月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6月23日からの大雨災害【6月～7月】 ■ 台風第18号災害【9月】 ■ 10月27日28日の大雨災害【10月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有珠山噴火災害【3月】 ■ 三宅島火山活動と近海を震源とする地震災害【6月～】 ■ 東海地方豪雨と ■ 台風第14号災害【9月】 	<ul style="list-style-type: none"> ★安眠セットの整備始まる ■ 鳥取県西部地震災害【10月】 ■ 高知県西部大雨災害【9月】 ■ 芸予地震災害【3月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 兵庫県宝塚市での山林火災【3月】 ■ 台風第6号災害【7月】 ■ 9月16日からの大雨災害【9月】 ■ 梅雨前線による大雨災害【7月】 ■ 宮城県北部連続地震災害【7月～】 ■ 台風第10号による ■ 日高周辺大雨災害【8月】 ■ 台風第14号災害【9月】 ■ 十勝沖地震災害【9月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新潟県中越地震【10月】 ■ 台風第23号関連災害【10月】 ■ 福井県豪雨災害【7月】 ■ 新潟・福島豪雨災害【7月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡県西方沖地震災害【3月】 ■ 宮城県沖を震源とする ■ 地震災害【8月】 ■ 豪雪による災害【12月～翌3月】 ■ 台風第14号災害【9月】 ■ 台風第13号災害【宮崎】【9月】 ■ 梅雨前線による大雨【7月】 	<ul style="list-style-type: none"> ★救援物資「日用品セット」の見直し ★「緊急セット」の整備開始 ■ 能登半島地震災害【3月】 ■ 梅雨前線および台風第4号による ■ 大雨災害【7月】 ■ 新潟県中越沖地震【7月】 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 岩手県北部を震源とする地震【7月】 ■ 岩手・宮城内陸地震【6月】 ■ 8月28日からの大雨災害【8月】 ■ 7月28日からの大雨災害【7月】 		

平成の災害と赤十字

日赤の救護活動を写真で振り返る

A disaster and the Red Cross of the Heisei



熊本地震

平成28年

Kumamoto Earthquake in 2016



Red Cross Topics

エコノミークラス症候群の予防のため「弾性ストッキング」を配布

全国から医療救護の調整を担う日赤災害医療コーディネーターチームを派遣し、被災市町村で関係団体などと連携して救護活動を実施。エコノミークラス症候群の予防啓発や給水支援なども行った。活動後の検査を踏まえ、全国からの支援受け入れ体制の構築、都道府県など関係機関との一層の協働連携の強化に取り組んだ。

余震が多発し長引いた避難生活

4月14日、16日と、短期間のうちに2度も最大震度7の大地震が発生。死者255人、住家被害20万5641棟、最大避難者数は18万3882人にもなりました。震源地の断層付近で地震活動が活発化し、4月30日までに、震度5弱以上を含む体を感じる地震が4484回も発生しました。余震の恐怖から車中泊を続ける被災者も多く、入院を必要とするエコノミークラス症候群の発症事例も数多く報告されました。

西日本豪雨災害

平成30年

West Japan Heavy Rain Disaster in 2018



甚大な被害をもたらした豪雨災害

7月3日から8日にかけて台風7号が接近、梅雨前線の停滞も重なり、西日本から東海地方にかけて、特別警報が発表されるほどの記録的な大雨となり、多くの犠牲者が出ました。日赤は救護班などを派遣。救護所や避難所への巡回診療を行いました。

Red Cross Topics

被災市町村に拠点を設置し、行政や関係機関と協働して救護活動を実施。こころのケア活動においては避難所などの被災者のみならず被災地行政に対し継続した支援を実施した。



行政担当者へのこころのケアを実施する日赤の職員

北海道胆振東部地震

平成30年

Hokkaido Iburi Eastern Part Earthquake in 2018



地震が少ないと思われた地域で大地震

9月6日胆振地方東部を震源とするM6.7の大地震が発生。北海道で史上初めて震度7を記録し、土砂崩れにより多くの犠牲者が出ました。日赤は、救護班やDMAT(災害派遣医療チーム)、日赤災害医療コーディネーターチームを派遣し、支援を続けました。

関連情報

【写真パネル展】平成の災害と赤十字 語り継ぐ。過去から学び、未来に生かす

【場所】赤十字情報プラザ(港区芝大門1-1-3 日本赤十字社本社1階) 【期間】3月29日(金)まで ※入場無料 【時間】平日9:30~17:00 ※土日、祝日は休館

日本赤十字社が行ってきた救護活動を通して、平成の災害を振り返る特別展示を開催中。救護の現場で実際に使用している資機材や救援物資、今後の防災・減災に生かす防災教育用教材などを紹介、また本特集で紹介した写真などもご覧いただけます。

2009 平成21年	2010 平成22年	2011 平成23年	2012 平成24年	2013 平成25年	2014 平成26年	2015 平成27年	2016 平成28年	2017 平成29年	2018 平成30年
<ul style="list-style-type: none"> 7月21日からの豪雨災害(7月) 台風第9号災害(8月) 駿河湾を震源とする地震(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月12日からの豪雨災害(7月) 10月20日の大雨災害(10月) 	<ul style="list-style-type: none"> 霧島連山・新燃岳の火山活動(1月) 東日本大震災(3月) 新潟県・福島県における大雨災害(7月) 台風第12号災害(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県等における竜巻災害等(5月) 7月3日からの大雨(7月) 福岡県豪雨災害・大分県大雨災害(7月) 7月九州北部豪雨(熊本広域大水害) 8月13日からの大雨(8月) (京都府南部豪雨災害)(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> 7月26日からの大雨災害(7月) 8月9日からの東北地方を中心とする大雨災害(8月) 8月23日からの大雨災害(8月) 埼玉県・千葉県における突風災害(9月) 台風第18号大雨災害(9月) 台風第24号災害(10月) 台風第26号および第27号災害(伊豆大島)(10月) 秋田県利根市土砂崩れ事故(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> 2月14日からの大雪災害(2月) 盛岡市林野火災(4月) 台風第8号災害(7月) 台風第11号および第12号災害(7月~8月) 広島市土砂災害(8月) 御嶽山噴火災害(長野県)(9月) 長野県神城断層地震(11月) 	<ul style="list-style-type: none"> ★青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち」ひるめるほづさい」配布 鹿児島県口永良部島噴火災害(5月) 阿蘇山中岳の噴火災害(9月) 阿蘇山18号等大雨災害(9月) 台風第10号大雨災害(8月) 鳥取県中部地震(10月) 熊本地震(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> 九州北部豪雨災害(7月) ★「赤十字防災セミナー」全国展開が始まる 台風第21号災害(10月) 台風第18号災害(9月) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道胆振東部地震(9月) ★幼児向け防災教材を作製配布 西日本豪雨災害(6月~7月) 大阪府北部地震(6月) 草津白根山噴火災害(1月) 	

ドキドキ体験! みんなのボランティア

vol.9

* 災害に備えるボランティア *

at 愛媛県四国中央市内の公民館

災害に備え、知識と技術と一緒に学ぶボランティア

伊予三島赤十字奉仕団が実施する「手つなぎ防災ひろば」のボランティア体験をしました。日赤愛媛県支部には大人と子どもと一緒に地域の共助力を高める「手つなぎボランティア」という活動があり、その防災教室版が「防災ひろば」です。今回は四国中央市立松柏小学校6年生の児童84人と先生が参加し、防災についての講習と、非常食作りを行います。

ボランティアは開始時間の1時間ほど前から集まって、お鍋を洗ったり、非常食作りの準備からスタート。短い時間に盛りだくさんの内容で緊張しましたが、児童たちが真剣に参加し、非常食を食べて、おいしい!と言ってボランティアと笑顔を交わす様子に、「防災ひろば」を通じた地域の結束力の高まりを感じました。

カレーとめんつゆ
ゆっくり入れてね

非常食づくり



【備えるごはんレシピ1】「カレーにゆうめん」

作り方の順番や火加減をサポート。
くわしいレシピは右の「つづけるサイト」に!

【備えるごはんレシピ2】「経口補水液」
熱中症や発熱時の脱水症状に効果が期待できる。砂糖を適量入れることで吸収力がアップする。



できあがった「カレーにゆうめん」を鍋からよそって、児童たちに配ります。

試食



クラシルの[備えるごはんレシピ(動画)]は、日赤の「つづけるサイト」からご覧いただけます。

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society

kurashiru

つづけるサイト jrc-tsudukeru.jp



防災講習



普段から
助け合うことが
大切です



講習の内容は、災害から自分のいのちを自分で守る「自助」と家族や地域の人たちと助け合う「共助」を中心に、応急手当の方法など。児童が真剣に聞いているそばで見守ります。

担架づくり (救急法)

気を
つけて~

とっと
持ち上げてね



ケガ人や病人を運ぶために毛布を利用した担架の作り方と運び方をトレーニング。ボランティアは児童がケガなどをしないよう声をかけます。

こんにちは。40代の主婦、
あかいとうこ
赤井十子です!子育てが
いち段落してできた時間を
活用して、困っている人や
地域の役に立つ方法を
探しています。



防災体験しっかしっか

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、
日本赤十字社の活動は行われています。



関東甲信越

20の献血ルームが就活生を応援！ 無料Wi-Fiや電源が使える施設も

日赤関東甲信越ブロック血液センターでは、関東甲信越地域の献血ルームのうち20カ所を「就活生応援ルーム」として開放中です。無料Wi-Fiの利用や電源の貸し出しが可能な施設もあり、就職活動の合間に気軽に立ち寄って利用できます。開放期間は9月30日まで(平日限定)。対象となる献血ルームの場所や利用可能な時間帯など、詳細は二次元コードからご確認ください。



清潔感と落ち着きのある空間でリラックス



↑詳しくは、
二次元コード
からチェック

京都府

全国でも京都刑務所だけの試み！ 避難所となる刑務所で防災訓練

1月25日、日赤京都府支部の職員と京都第一赤十字病院DMAT(災害派遣医療チーム)が京都刑務所の防災訓練に参加しました。自衛隊や消防、警察と協力したこの訓練では、刑務所と地域住民の連携という全国でも類を見ない取り組みが盛り込まれています。地域住民は避難所に指定されている刑務所内の道場への避難ルートを確認し、救援物資の搬入訓練などを行いました。



日赤職員は救護所の設置や関係機関との連携を確認

群馬県

手術を受けることが決まったら… “初めての不安”を専門家がサポート

前橋赤十字病院に赤十字病院初、県内初となる「手術のための準備支援センター」が新設されました。手術室に隣接する同センターでは、麻酔科医による診察、手術室看護師による面談、管理栄養士による術前栄養指導などをすべて1カ所で受けることが可能。患者さんの不安な気持ちに寄り添い、術前から術後にかけて生じるさまざまな負担の軽減や入院日数の短縮につながる取り組みとして期待されています。



手術前から始めるリハビリなど早期回復のアドバイスも

静岡県

香川県

“顔の見える”関係作りで ボランティア同士の連携力をUP!

日赤では防災ボランティアの研修会を各地で開催しています。1月26日、香川県支部の研修会には約50人が参加。応急手当てなどの実技講習に加え、昨年の西日本豪雨でボランティア活動に携った人々からの報告を紹介。同日、静岡県支部では、ボランティア同士の顔の見える関係作りを目的とした研修会でグループワークを実施。災害時にリーダーシップを発揮する人材育成の場となりました。



熱のこもったグループワーク 炊き出しなど基礎的な実技講習も

埼玉県

3日間にもわたる山火事が発生 日赤奉仕団は炊き出しで消防団を支援

1月23日、埼玉県の堂平山で山火事が発生。日赤埼玉県支部のときがわ町赤十字奉仕団は炊き出しを実施し、火災発生から数時間後の夕方から延べ2日間にわたって、現地で奮闘する地元の消防団員のために、おにぎり500個と豚汁100人分を提供。奉仕団の渡辺百合子委員長は「初めての活動！日頃の訓練が生きました」と語りました。山火事は26日に鎮火し、負傷者や家屋の被害はありませんでした。



主婦にとって多忙な夕食時にもかかわらず、速やかに集結した奉仕団

「知って良かった！健康豆知識」は切り取って保存していただけます

日赤のドクター&ナースが教える

知って良かった！

健康豆知識



「隠れ肥満」を撃退！～健康寿命を延ばすために

唐津赤十字病院 疾病予防センター長 茨木 一夫 (いばらき かずお) 医師
佐賀県唐津市和多田 2430 TEL: 0955-72-5111

肥満度を測る目安とされているのが、身長・体重を計算式に当てはめて算出するBMIという数値。

BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

この計算式による数値が右の表の「ふつう」の枠におさまれば、健康的で成人病などのリスクが少ないといわれていますが、数値が「ふつう」でも、医療機関で正確に内臓脂肪を測ると隠れ肥満が判明することがあります。筋肉の少ない女性や高齢者はとくに注意が必要で、例えば身長156cm・体重50kg=BMI20.5、一見すると細身に見える女性にたくさんの内臓脂肪と脂肪肝が見つかる、というケースもあります。隠れ肥満、内臓脂肪の蓄積量は、単純にBMI数値だけで判

断することができないのです。

脂肪には皮下脂肪と内臓脂肪があり、悪さをするのは内臓脂肪です。蓄積されることで悪玉物質が発生し、糖尿病や動脈硬化などの要因となります。

では、内臓脂肪を減らす・ためないようにするにはどうしたらいいか？ 代表的な取り組みとしては食事療法と有酸素運動が推奨されています。一方、最近ではレジスタント運動(筋トレ)を行うことも有効とされています。筋肉量を増やすことが重要なのです。筋肉は年齢とともに減少する一方です。内臓脂肪を減らし、健康寿命を延ばすためには、日頃から簡単な筋トレを習慣にすることをお勧めします。

BMI	判定
18.5 未満	低体重
18.5 以上～25 未満	ふつう
25 以上	肥満



何もしていないと筋肉は落ちていく。身近にあるものを利用して筋肉を増やす・維持する習慣を持つことが大切。

file. 54

三重県 大分県

“人を救う技術”をレベルアップ！
赤十字救急法の競技会が各地で開催

傷ついている人を救いたい、その心と技術に磨きをかけようとしている学生たちがいます。日赤三重県支部と大分県支部では赤十字救急法の大会を相次いで開催しました。1月27日の「第2回三重県赤十字救急法競技大会」には小学生9人を含む65人が参加。2月11日の「第12回大分県高等学校青少年赤十字救急法大会」は高校生が大会運営の中心となり、自分たちのアイデアで赤十字救急法の普及活動に取り組みました。



救急法の知識と技術をチームで競った

神奈川県

「港町・横浜で船舶衝突事故、発生」
本物の旅客船を使用して救助訓練

1月31日、日赤神奈川県支部は船舶事故を想定した救助訓練を旅客船「マリーンルージュ」で実施しました。横浜海上保安部との業務提携によって毎年行われているこの訓練には、海上保安庁の特殊救難隊や地域を所管する警察や消防も参加。横浜市立みなと赤十字病院の医師や看護師らは巡視艇から旅客船に乗り込み、治療の優先順位を決めるトリアージなどにあたりました。



暗闇の中、負傷者数や事故状況が不明な設定で訓練が行われた

静岡県 埼玉県

赤十字の精神、“仕事”を通じて理解
小中学生が赤十字活動を体験

日赤静岡県支部の奉仕団は1月27日の「第3回ながいずみニコニコタウン」に初参加。小学6年生までの子どもたちが一次救命処置などを体験しました。また、埼玉県支部では同月、17人の中学生に、街頭での募金や献血の呼びかけなど、職場体験の場を提供しました。日赤の活動は多岐にわたり、若年層への認知には多くの課題がありますが、赤十字の精神や社会的役割が子どもたちにも浸透する取り組みとなりました。



一次救命処置の練習に取り組む小学生(静岡)と献血を呼びかける中学生(埼玉)

高知県

南海トラフ地震に備えて
災害時の救護活動拠点に

1月17日、高知県赤十字血液センターの竣工式が行われました。同センターは将来の南海トラフ地震に備えて、津波による長期浸水被害が予想される湾岸部から南国市内の内陸部に移転しました。災害時、スムーズに県内の医療機関に血液製剤を搬送できることが期待されます。浄水装置や500人が30日間使用可能な埋設型の大型災害トイレを整備し、災害時の救護機能を強化しました。



医療機関向けに輸血用の血液製剤を供給する県内唯一の拠点

常任理事会開催報告

平成31年2月15日、本社において平成30年度第10回の常任理事会が開催されました。

- 1 不動産の処分について
(前橋赤十字病院)
- 2 理事会および第93回代議員会に付議する事項について
(役員の選出、平成31年度事業計画および平成31年度収支予算)

審議の結果、不動産の処分については原案のとおり議決され、理事会および第93回代議員会に付議する事項については、原案のとおり、平成31年3月20日開催の理事会および第93回代議員会に付議することが了承されました。

また、予算の補正にかかる1月分の社長専決事項について報告しました。

秋田赤十字乳児院の里親支援を
ジャーナリストの卵がレポート

ジャーナリスト志望の若者を対象に行われた、**第二回ヤングリポーター・コンペティション**(主催・ICRC駐日事務所など)で、日本赤十字社賞に輝いた石井里歩さん(上智大学)が、新たに日赤乳児院の里親支援取材しました。子どもたちの成長に寄り添い、きめ細やかな養育を行う乳児院が導いた、血のつながらない親子の幸福とは…。



←日赤のサイトで
ご覧下さい。



present プレゼント

WEBサイトや劇場で座席指定ができる
カード型映画鑑賞券をペアで！

映画「ソローキンの見た桜」
鑑賞券(ペアチケット)

3名さまに

日露戦争時代、松山の捕虜収容所を舞台に看護師とロシア兵将校の道ならぬ恋を描いた映画「ソローキンの見た桜」(3月22日公開。8ページ「1枚の写真から」も併せてご覧ください)



※チケット裏面の番号を使って座席指定ができます。

希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

- ①お名前(匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字NEWS 3月号を手にした場所
(例/献血ルーム)
- ⑥3月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？
(いくつでも)
A. 表紙 B. 平成の災害と赤十字
C. みんなのボランティア
D. エリアニュース
E. 健康豆知識 F. プレゼント
G. ワールドニュース H. 1枚の写真から
- ⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice(読者の声)への投稿もお待ちしています。

郵送/〒105-8521

東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS 3月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字NEWS 3月号プレゼント係」)
3月20日(水)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

実施中 防災・減災プロジェクト ～私たちは、忘れない。～

日本は世界有数の地震大国です。気象庁の発表では、これまで世界で起きたマグニチュード6以上の大きな地震の5分の1が日本で発生。日本に住んでいる限り、「いつでも、どこでも、だれでも」地震に遭遇する可能性があります。

日本赤十字社は、このような将来起こりうる災害に対応する力を社会全体で育てていくため、防災・減災に関する活動を実施しています。

このプロジェクトには、以下の方法で参加することが可能です。ぜひご参加ください。

【ご協力について】

- 受付期間：2019年3月31日(日)まで
- 協力方法：Yahoo! ネット募金を通じて、クレジットカードまたはTポイントでご寄付いただけます。
※ただし、Yahoo JAPAN ID の取得(無料)が必要です。



「もんだい」シートで、危ない子、安全な子を考えます。

Yahoo ネット募金 日本赤十字社 忘れない

検索

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/I30I037/>



WORLD NEWS

避難民キャンプの防災・減災活動
【バングラデシュ】



ハザードマップの完成を喜ぶ現地ボランティアと、マップ作りをサポートした村住看護師(最奥右端)

地域ボランティアと住民が一体となって 命を守るためのハザードマップ作り

バングラデシュの避難民キャンプでは、日本赤十字社の支援により地域ボランティアが防災・減災活動に取り組んでいます。自然災害のリスクの中で生活する人々の課題と活動を、現地にいる村住英也看護師(旭川赤十字病院)がレポートします。

防災・減災の意識を地域住民のもとへ リスクを把握し、対応力の強化を目指す

日本赤十字社は現地バングラデシュ赤新月社とともに避難民キャンプでのハザードマップ作りをサポートしています。キャンプの住民らをボランティアとしてトレーニングし、彼ら自身の手で防災・減災につながるハザードマップを作成します。サイクロンをはじめとする自然災害が多いバングラデシュにおいて、そうした災害や危機に対し事前にリスクを把握、軽減し、災害が発生しても適切に対処できる能力の強化を目指しています。

このハザードマップには、自分たちが暮らす地域にある水資源やトイレ、学校、医療施設などを記入。それに加えて、険しい道や滑りやすい場所、土砂崩れといった危険性をピックアップし、ボランティアや地域住民たちが利用可能な資源やリスクを把握していきます。

ボランティアが成長 女性ボランティアの視点も重要に

基本的な地形を描くことすら初体験だというボランティアもいる中、目印となる建物や生活に欠かせない水場などをリストアップするところから作業がスタートし、手探り状態で地図を描き進めていきました。話し合いやハザードマップ作成などの作業中にたびたび見受けられたのは、男性ボランティアが中心となって物事が進んでいく場面。当初は一步引いている様子の女性ボランティアたちでしたが、作業を重ねていくうちに女性からも意見が出てくるように。男性ボランティアが地理的な危険性や避難ルートを検討する一方で、女性ボランティアからは「この家には足の悪いおばあちゃんがいるから避難のときには助けが必要」「この家には妊婦がいる」など、男性とは異なる視点の、人に寄り添ったこまや

かな情報もたらされました。こうしたハザードマップ作りを通してボランティアたちも成長。身の周りの危険に関する話し合いの時間を増やすなど、高いモチベーションで作業を続けながら地域の防災・減災に注力しています。

また、日赤では地域保健活動の一環として応急手当ての講習なども実施。子どものけがややけどには歯磨き粉や草をつぶしたものを塗っていた避難民も、今ではボランティアに教わった応急手当てを実践し始めています。



積極的に発言をする女性ボランティア



戦いで兄弟を失ったゆいは、ソローキンを憎みながらも次第に心を寄せていく

特別編

7枚の写真から
picture tells stories

映画「ソローキンの見た桜」
～ヒロインは日本赤十字社の看護師

日露戦争時代、愛媛県松山市に日本で最初のロシア兵の捕虜収容所がつくられ、日赤の看護師が傷を負ったロシア兵の手当てにあたりました。戦争直前に締結されたハーグ条約では捕虜に対する“博愛の精神”がうたわれていたため、日本政府の方針により、松山市ではロシア人捕虜と市民の間に良好な関係が築かれました。そんな時代を舞台にしたこの映画では、献身的な日赤看護師のヒロイン・ゆい(阿部純子)がロシア兵将校のソローキン(ロデオン・ガリュチェンコ)と敵国同士でありながらもひかれあっていきます。

3月22日(金) 全国公開 / 3月16日(土) 愛媛県先行公開

監督・脚本・編集=井上雅貴

出演=阿部純子 ロデオン・ガリュチェンコ

山本陽子(特別出演) アレクサンドル・ドモガロフ 六平直政
齋藤工 イッセー尾形

配給=KADOKAWA

©2019「ソローキンの見た桜」製作委員会